

## 英国環境思想におけるオクタヴィア・ヒルの位置づけ

木村美里（聖学院大学）

本報告の目的は、英国環境思想における女性社会改良家オクタヴィア・ヒル(Octavia Hill, 1838-1912)の位置づけを考察することである。

「自然」ないし「環境」への考えは、時代とともに変化している。英国ではケルト人の自然観に始まり、各時代において「自然とは何か」、または「自然と人間との関係性」が問われ続けてきた。宗教・政治・文学などの分野で自然、あるいはそれを取り巻く環境が観念的なものとして捉えられてきた。19世紀に入ると産業革命による環境破壊が深刻な社会問題となり、この問題に対して自然の美しさ、自然保護を目的とする環境思想が前面に現れた。ヒルはそのような時代において、概念のみならず、実践活動を通して自然および「歴史的環境」を後世に伝える理想を実現した。彼女が創設に携わった英国ナショナル・トラストがその集大成といえる。

では何がヒルの思想的基盤となり、彼女の実践を支えたのか。本報告では、彼女の思想的背景となる宗教的・芸術的影響および住宅改良運動、オープン・スペース運動などの実践的活動に着目する。その上で英国環境思想の歴史的変遷の中でヒルがどのように位置づけられるのかを論じたい。